



今月の題字
やま と
金澤大和君
(大浦小3年)

町のわだい

荒川地区 環境保全組合と町が協定 地域の資源保護に取り組む

4月19日、町と荒川農地・水・環境保全組合（斉藤國三郎代表）による農地・水・環境保全向上対策に係る協定の調印式が行われました。同組合は農業者と地域住民が協力し合い農道や農業用水などの資源を守ることを目的として4月10日に設立。今回の協定は町がその活動を支援するため締結したものです。同組合の活動区域は荒川地区の水田64㌃、水路6,411㌃、道路4,390㌃などで、主な活動として農道の補修や草刈り、水路の泥上げや水生生物の生息調査などを計画しています。



漁業系廃棄物を有効利用 織笠漁協が破碎カキ殻を初出荷

4月9日、本町で漁業系廃棄物として年間約1,300ト生じるカキ殻の有効利用を目的に織笠漁協で生産した「破碎カキ殻」の初出荷が行われました。2～3㍉程度に細かく砕いたカキ殻は、耕作地のカルシウム補給資材や道路の敷き詰め材、たい肥の原料などとして幅広く活用されています。この日は破碎カキ殻4トがトラックに積み込まれ、県内のたい肥処理施設へ出荷されていきました。破碎カキ殻は500㌔当たり4,200円で販売。小売にも応じていますので、詳しくは役場産業振興課水産振興担当（☎82-3111内線232）へお問い合わせください。



関口児童館に放課後児童クラブ 開所式で新たなスタート祝う

本町3カ所目となる放課後児童クラブが関口児童館に開設され、4月1日、同館で開所式が行われました。式には関係者20人が出席。通所児童の新たなスタートを祝いました。式では沼崎喜一町長のあいさつに続き、入所児童を代表して芳賀悠希さん（山田北小5年）が誓いの言葉を述べました。同クラブは共働きなどで昼間に保護者のいない家庭の小学校児童を放課後に預かる学童保育所。平日の放課後のほか、夏休みなどの長期休暇や土曜日にも児童を受け入れています。詳しくは役場保健福祉課児童福祉担当（☎82-3113）へお問い合わせください。

山田魚市場が衛生管理モデルに 全国で6番目の認定受ける

優れた衛生管理を行う市場を認定する「優良衛生品質管理市場」に、山田魚市場（山田漁業協同組合連合会地方卸売市場）が認定されました。認定証の交付式は4月10日に宮古地方振興局で行われ、大矢正昭局長から市場開設者である山田漁業協同組合連合会の阿部金一代表理事会長に認定証が手渡されました。優良衛生品質管理市場は、社団法人日本水産会が水産物の衛生・品質管理の向上に積極的に取り組む市場のモデルを認定するもので、県内では洋野町営八木魚市場、宮古市魚市場に続いて3番目、全国では6番目の認定となります。



2団体に防災資器材を交付 自主防災組織の育成図る

大沢地区コミュニティ推進協議会（昆暉雄会長）と織笠地区コミュニティ推進協議会（昆常治会長）に防災資器材が交付されました。これは、町が自主防災組織育成事業の一環として行っているものです。交付式は3月28日に役場町長室で行われ、両協議会から4人が出席。沼崎喜一町長から交付書とヘルメット、ハンド型メガホンなどが手渡されました。これまで同資器材の交付を受けたのは、今回の両協議会を含め7団体。本年度は山田中地区自主防災会など3団体へ交付される予定です。

豊間根初のグループホーム開所 地域に開かれた施設目指す

4月20日、豊間根地区で初となるグループホーム「ホームとよまね」（伊藤レイ子代表）がオープンしました。この施設は昨年度町が募集した地域密着型サービスの提供事業者に株式会社メイト（豊間根）が指定を受けて開所したもので、認知症の方を対象とした共同生活介護施設です。同施設では、利用者スタッフが協力しながら家庭的な雰囲気の中で共同生活を過ごすことができ、現在9人の定員はすでに満員となっています。伊藤代表は「利用者やご家族だけでなく、介護や福祉に興味がある方や地域の皆さんも気軽に遊びに来れるような、開かれた温かみのある施設にしていきたい」と話していました。

